

### 報告会を共同開催



～インフラ整備を担う組合同志が、  
資源（砂利）の有効活用を共に模索～

#### 長岡砂利採取販売協同組合 & 長岡地区生コン事業協同組合

10月28日（金）、「ながおか市民センター」において、長岡砂利採取販売協同組合（以下、「砂利組合」）と長岡地区生コン事業協同組合（以下、「生コン組合」）による報告会が開催されました。長岡工業高等専門学校との協力の下、「碎石の生コン骨材活用の有用性について」をテーマに、共通商材である「砂利」の将来を共に模索する場となりました。

##### — 長岡から砂利が無くなる?? —

砂利は主に生コンを製造する上での材料として使われ、社会のインフラ整備には欠かせない骨材の一つです。しかし、長岡地域内の砂利については近年枯渇が懸念されており、砂利を活用する事業者にとどまらず、地域全体で考えなければならぬ課題となっています。

砂利を活用する事業者が中心となり、地域の現状についての認識を共有するとともに、今後の天然骨材資源の活用方法等について模索する必要があります。

##### — 学校との共同研究結果を報告 —

骨材供給側の砂利組合では、かねてより長岡工業高等専門学校とともに生コン用の骨材としての碎石の混入活用の有用性について共同研究し

てきました。長きにわたって骨材を生コン組合へ安定的に供給するためには、天然の玉砂利のみではなく、玉割碎石の混入活用が必要であることを両組合が正しく理解する必要があるからです。

報告会当日は、同校教授より、碎石の混入割合を高めることによる生コンの品質や強度の変動等について、研究結果の説明がなされました。まだ研究段階のため、生コン骨材として現場採用していくには研究の余地があるものの、実用化の足がかりとなり、次の研究に向けたステップにもなりました。

今回の報告会によって、碎石割合を高めた生コン骨材の流通の実現性が高まり、今後は共通認識を持った両組合がWIN-WINの関係で、地域社会のインフラ整備に貢献することが期待されます。

当会としても、引き続き両組合の「つながり」を支援していきます。

##### 参加組合の声

長岡砂利採取販売協同組合  
理事長 本間 信彦

「弊組合HPに掲載させて頂いているように、「豊かな新潟の未来を支えるためには、有限の天然資源をいかに有効活用していくか」に集約されます。今後とも、3つの安定（量、質、価格）供給のために継続的な研究・検討を行い、『骨材版SDGs』を標榜するものです。」



##### 参加組合の声

長岡地区生コン事業協同組合  
理事長 木津 信明

「生コン製造には、骨材（砂利）は欠かせない原材料です。その有効活用を当組合（需要側）と砂利組合（供給側）で一緒に考えることは大変重要なことで、中間報告会は意義深いものでした。今後も協働して、インフラ整備に欠かせない生コンの安定供給に繋げていきたいと思っております。」

